

第14回

化粧品包装セミナー

— 化粧品企業のこだわりと消費者が求める機能 —

日 程:平成24年2月13日(月)10:00~16:10

会 場:(社)日本薬学会 長井記念ホール

主 催:公益社団法人日本包装技術協会

ご参加の勧め

化粧品・トイレタリー商品は、多種多様な製品が店頭に並んでおり、また日々利便性・デザイン性を向上させたパッケージが開発されております。こうした状況の中、包装設計をするにあたり考えなければならない事は、内容物特性や使用性、環境対策、デザイン等多岐にわたります。

今回のプログラムでは、商品づくりのこだわり、コンパクトケース開発事例、環境・ユニバーサルデザインに対応した事例、感性工学からみたパッケージデザイン等、最新テーマを幅広くそろえ編成しております。

どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

プログラム

時 間	講 演 内 容	講 師
10:00 ▼ 11:10	『ちふれ化粧品の消費者本位の商品づくりと環境への取り組み』 ちふれ化粧品は1968年に消費者団体である「全国婦人団体連絡協議会(全地婦連)」とともに作り出された化粧品である。 創業当時より「一人ひとりのゆたかな生活」を開発する企業であるという基本理念に基づき、環境問題への取り組みを重視して、さまざまな環境保全活動に、いち早く取り組んできた。 「100円化粧品」としてスタートしてから現在までの消費者の立場に立った商品づくりや環境配慮への取り組みについて紹介する。	株式会社ちふれ化粧品 商品企画本部 執行役員本部長 関 泰明 氏
11:20 ▼ 12:30	『耐衝撃性能を有するコンパクトケースの開発』 パウダーファンデーションに求められる品質特徴として、柔らかく滑らか、軽い塗布感でありながら粉っぽくない、仕上がりの良さといった点が挙げられる。しかし、これらの品質特徴を追求していくことは、中身保護(品質保証)の観点からいえばトレードオフの関係にあり、落下等の衝撃により、中身が割れ易くなる傾向がある。そこで、従来にはないソフトタイプのパウダーファンデーションの開発を支援するために、耐衝撃性を付与したコンパクトケースを開発した。 本講演では、上記開発コンパクトケースを応用した「ドルティアパクト用ケース」を中心に、その開発過程に関して報告する。	株式会社カネボウ化粧品 メイクアップ研究所 研究員 大鐘 新也 氏
13:30 ▼ 14:40	『化粧品の環境・ユニバーサルデザインを考慮した容器開発』 花王は、本品容器のリユース化と廃棄ゴミの削減でサステナブルな社会に貢献するために、化粧品の詰め替え・付け替え容器の開発を進めている。化粧水用の詰め替え容器では、パウチでの詰め替え作業時の不安感を払拭した新コンセプト容器を発売したので、その特徴を説明する。また、化粧品の容器設計について、機能性と情緒性を兼ね備え、環境・ユニバーサルデザインも考慮した特長ある容器についても開発事例を紹介する。	花王株式会社 包装容器開発研究所 主任研究員 鈴木 英哉 氏
14:50 ▼ 16:10	『感性工学からみた化粧品パッケージのデザイン評価』 商品の(パッケージ)デザインに対する評価は、それを見てすぐに感じられる人の無自覚過程の結果として得られる。その可視化されていない過程のため、パッケージデザインを行うデザイナーにとって、デザインするための要求項目を把握することができない。 そこで、もし、消費者の無自覚過程の評価に関する認知モデルが明らかになり、さらにその認知モデルから具体的なデザインの知識が得られるとするならば、デザインの設計論となる。この認知モデルの1つとして、階層構造の「パーソナル・コンストラクト理論」がある。 人間行動をこの認知モデルで考えると、例えば、手に取った化粧品パッケージを見た時、その下位の認知部位(形態要素)を知覚して、高級感や個性的な印象などを感じ、その無自覚過程を経て、上位の「好き」という態度を自覚する。この階層関係の上位から下位にかけ分析してその構造を解析的に明らかにすると設計の際の有益な知識となる。この階層構造を、あいまいな問題を解くことのできる区間分析とラフ集合を用いて明らかにする感性工学的な考え方を具体的に解説する。	広島国際大学 心理科学部 教授 井上 勝雄 氏

講師のご紹介

■関 泰明氏

㈱ちふれ化粧品
商品企画本部
執行役員本部長

1988年 ちふれ化粧品販売㈱入社
1995年 ㈱ちふれ化粧品入社
2006年 同社 開発部部長
2010年9月より現職
商品企画本部 執行役員本部長

■大鐘 新也氏

㈱カネボウ化粧品
メイクアップ研究所
研究員

2004年 カネボウ㈱入社
化粧品研究所に所属し、
容器包材の設計・開発を
担当
2011年12月より現職
メイクアップ研究所 研究員

■鈴木 英哉氏

花王(株)
包装容器開発研究所
主任研究員

1993年 花王(株)入社、包装容器開
発研究所に所属しハウス
ホールド製品やパーソナル
ケア製品などのトイレットリ
ー製品の容器開発を担当
2009年より化粧品容器開発を担当

■井上 勝雄氏

広島国際大学 心理科学部
教授

1978年 千葉大学大学院工学研究科修了
同年 三菱電機(株)入社
2000年 同社デザイン研究所インターフェイ
スデザイン部長を経て、
2002年より広島国際大学心理科学部 感性
デザイン学科教授 現在に至る。
インタフェースデザイン、感性工学、デザイン評
価及びデザイン設計論に関する研究に従事。
博士(工学)、人間工学専門家、専門社会調査士

講演要領

日時:平成24年2月13日(月) 10:00 ~ 16:10
会場:(社)日本薬学会 長井記念ホール
東京都渋谷区渋谷2-12-15 TEL.03-3406-3326
参加費:会員19,950円(消費税・テキスト代含む)
一般26,250円(消費税・テキスト代含む)
定員:100名

お申し込み方法

- 本紙申込書に必要な事項を全てご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
協会ホームページからもお申込できます。
*協会ホームページ: <http://www.jpri.or.jp>にてホームページを検索し、
各種・催事から「第14回化粧品包装セミナー」を開いて下さい。ペー
ジ末の申込みフォームに必要な事項をご記入して送信下さい。
- 申込みされた方には、後日参加証と請求書をお送りします。
- 当日、ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。
(受付にて名刺をご提出いただきます)

お問合せ並びに申込み先

公益社団法人日本包装技術協会 化粧品包装セミナー係 担当:竹内
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL.03-3543-1189 FAX.03-3543-8970
e-mail:takeuchi@jpri.or.jp

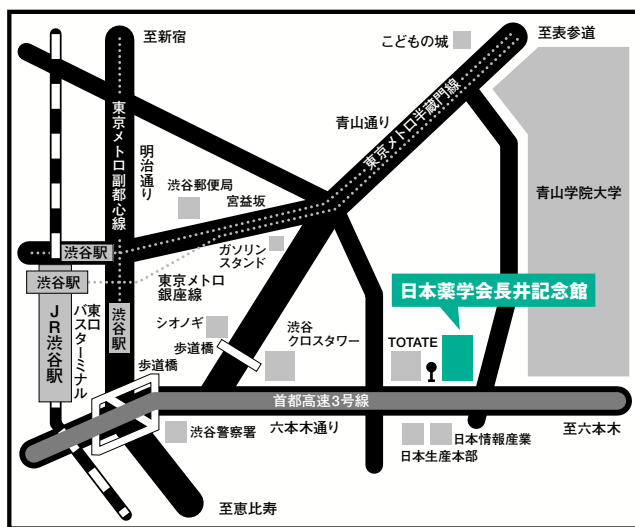
【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第14回化粧品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

会場案内図

■交通手段

JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、
地下鉄銀座線・半蔵門線の渋谷駅下車
JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号沿いに8分



お知らせ — 公益社団法人への移行について —

社団法人日本包装技術協会は、内閣府に対して公益社団法人への移行認定申請を行ってまいりましたが、本年10月21日に移行認定を受け、11月1日に新法人設立の登記を行いました。
これにより当会は「公益社団法人日本包装技術協会」の名称のもとに新たに出発することとなりましたのでお知らせいたします。

第14回化粧品包装セミナー(2月13日開催)参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 化粧品包装セミナー係 担当:竹内 FAX. 03(3543)8970 No.

会社名				JPI会員・一般 (どちらかに○を付けてください)
所在地	(〒)			
電話				F A X
参加者	氏名		所属 役職	e-mail
	氏名		所属 役職	e-mail
	氏名		所属 役職	e-mail